

復興ビジョン（資料）

1 復旧・復興の目的

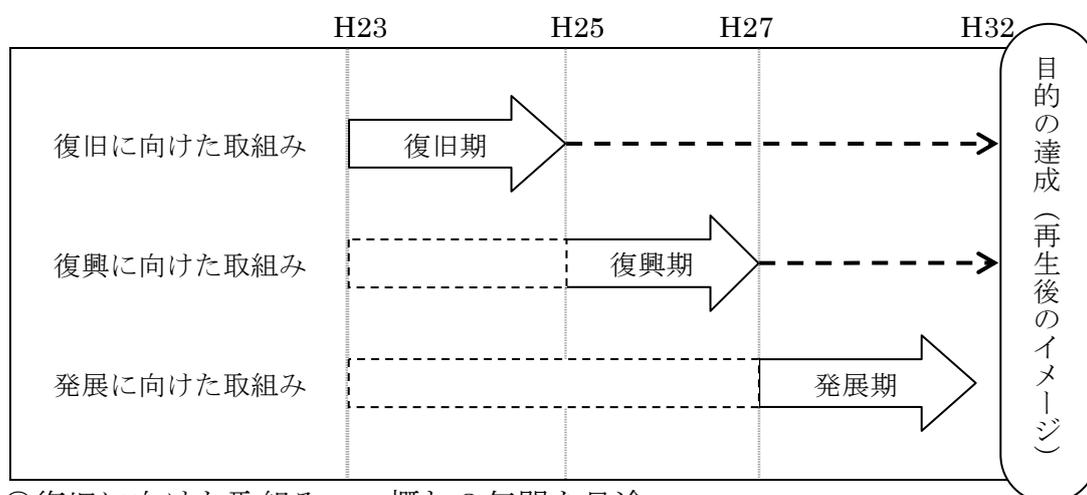
目的①	市民の安全・安心の最大限の確保
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大震災により、多くの市民の生命・財産が失われた。 ○ 本市の社会基盤に深く、大きな爪跡を残した。 ○ 原子力発電所災害の影響により、多くの市民の皆様の生活の安全・安心は損なわれている。 ○ 復興にあたっては、災害に強いまちづくりを進めることが求められる。 ○ 医療、福祉、住まい、雇用など生活に直結するあらゆる環境における安全と安心の確保が求められる。
目的②	震災前より更に活力を備えたまちの創造
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本市の産業は、震災及び風評被害により大きな打撃を受けている。 ○ 震災前から人口減少・少子高齢化の課題がある。 ○ 市民生活や福祉、教育などの水準を保ち、都市としての魅力を維持していくため、単に以前の水準に戻すのではなく、本市の地域特性や資源などの総力を結集する。 ○ 市のポテンシャルを最大限に活かしながら、震災前よりもさらに活力を備えた創造的復興に向けて取り組む。

2 目的達成に向けた復興の視点（理念）

<p>視点①</p>	<p>「オールいわき」「オールジャパン」による復旧・復興（連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 世界でも類を見ない未曾有の複合災害への対応となる。 ○ 再生・復興には、行政・市民・企業等が一体となり、英知とエネルギーを結集する必要がある。 ○ 再生・復興には、市内の力のみではなく、日本全国の連携・協力が必要となる。
<p>視点②</p>	<p>災害に強く、安全で、安心できるまちを目指す復興（安心）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今回の震災で、多くの市民の皆様の生命・財産が失われた。 ○ 原子力発電所災害の影響で、市民の生活の安全・安心が損なわれた。 ○ 復興にあたっては、減災の観点もとりいれながら、災害に強いまちづくりを進めることが求められる。 ○ インフラの整備、バックアップ機能などの強化が必須である。 ○ 支えあいの心が災害時の対応には重要である。 ○ 防災教育も災害時の対応には重要である。 ○ 医療、福祉、住まい、雇用などあらゆる環境が整わないと安心感は得られない。
<p>視点③</p>	<p>前例のない複合災害からの再生モデルを世界に示す復興（活力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今回の災害は、地震、津波による被害に加え、原子力災害とその風評被害が重なった前例のない複合災害である。 ○ 長い海岸線や港湾等これまで整備されてきた社会資本や蓄積されてきた技術等の地域資源を活用することが重要である。 ○ 再生エネルギーの積極的導入や、新産業・研究都市づくりなどへの取り組みが必須である。 ○ 前例のない複合災害からの再生モデルを世界に示す。

<p>視点④</p>	<p>住む人も住む場所も世界から愛されるまちを目指す復興（魅力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 原子力発電所災害の影響による市外への人口の流出がある一方で、相双地区からのいわき市に避難している人がいる。 ○ いわき市は被災地でもあり同時に被災者支援地でもある。 ○ いわきに人を呼び戻し、さらに新たな人を呼び込むことが必須である。 ○ 市内にいる人が住み続けたいくなるような魅力の再生と発信が重要である。 ○ 国際会議などの MICE の誘致、復興イベントの開催などにより魅力を発信する。 ○ 原子力発電所対応の前線基地としての役割を果たし、世界から愛されるまちを目指す。
<p>視点⑤</p>	<p>原子力に依存しない社会を目指すとともに、原子力災害を忘れず、受け入れ、克服する復興（脱原子力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害が起こる前の生活を取り戻すためには、モニタリングや放射線量の低減化などの原子力災害への対応が必要である。 ○ 医療体制の強化など、万一に備えた健康被害への対応が必要である。 ○ 正しい知識を身につけ、正しい判断ができるよう教育が必要である。 ○ 廃炉までには長い期間を要するという現実を受け入れることが重要である。 ○ 原子力災害を胸に刻みながら、再生可能エネルギーの先端基地などの将来像を展望し、今回の原子力災害を乗り越えることが重要である。

3 推進期間（平成 23 年度～平成 32 年度）



- 復旧に向けた取組み 概ね3年間を目途
- 復興に向けた取組み 概ね5年間を目途
- 発展に向けた取組み 概ね10年間を目途

